

歴史認識の溝を埋める

「日韓で共に学ぶ」

韓日の研究者が、両国の歴史教科書の記述を分析し、日本による朝鮮植民地支配について、共に学ぶことのできる「事実」とその資料を確認・検討した共同研究の成果をまとめた。



第1部「植民地支配の諸相」では「三・一独立運動」「関東大震災」などの歴史的事実を抽出、根拠となる資料を日韓双方から提案し、広く共有をめざした。

第2部「日韓をむすぶアプローチ」教科書、授業、博物館―では教科書の記述を比較分析し、「教科書」では事実共有を目的とした歴史教科書

の記述分析の広がり、「授業」では、両国で共有可能な歴史授業モデルの開発研究、「博物館」では、

歴史博物館で「加害」と「被害」をどう展示しているかの比較調査を報告、それぞれ日韓友好の土台を築くための提案を行っている。同書が「歴史認識の溝を埋め、歴史的事実が共有される一助となる」ことを期待したい。編著者は学習院大学教授。（清水書院、梅野正信編著、A5判、248ページ、税込2970円）